

証券コード：7472

“百年の信頼を、未来につなげる”

2023年3月期 第1四半期 決算説明補足資料

2022年8月9日（火）
株式会社鳥羽洋行

I .2023年3月期 1 Q決算について

II .今後の戦略及び見通し

I .2023年3月期 1Q決算について

<連結損益計算書の概要>

(単位：百万円)

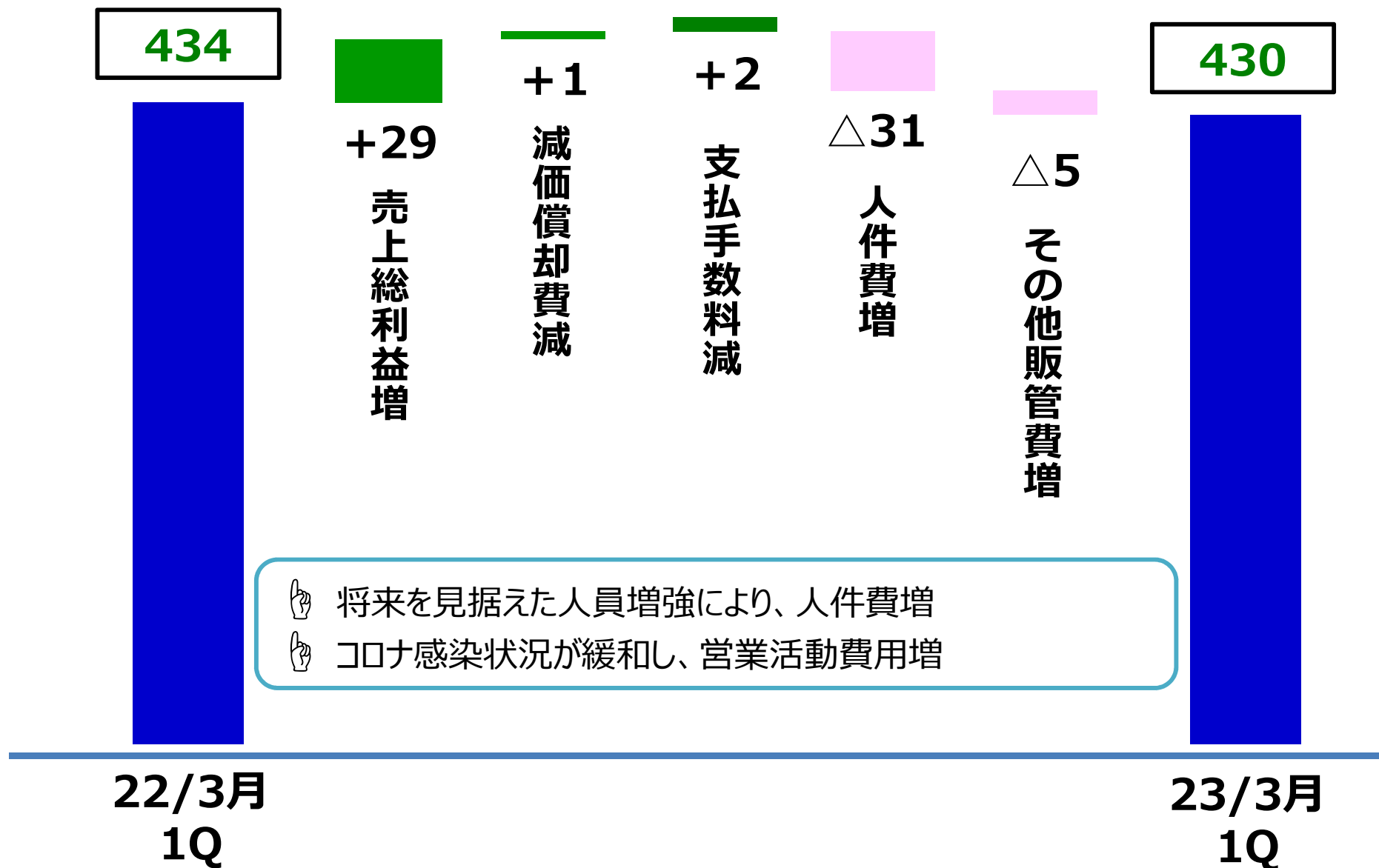
	22/3月期 1Q	23/3月期 1Q	前期比 (増減率)	備 考
売 上 高	7,261	7,372	1.5%	・昨年より、継続して電子部品や半導体製造装置向け国内販売が順調に推移 ・中国のスマホ関連への販売は一時減少したが好調を維持
営 業 利 益	434	430	△1.1%	・売上総利益率は+0.2P ・販管費は前期比+5.8% ※要因：人件費増
営 業 利 益 率	6.0%	5.8%	△0.2P	
経 常 利 益	481	471	△1.9%	
経 常 利 益 率	6.6%	6.4%	△0.2P	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	335	325	△2.9%	
四半期純利益率	4.6%	4.4%	△0.2P	

Point !

- 売上高は増加、利益については、人件費増加にて減益
- 半導体不足により、半導体・液晶製造装置向け好調
- 自動車・車載部品向けの売上は生産減により、伸び悩み

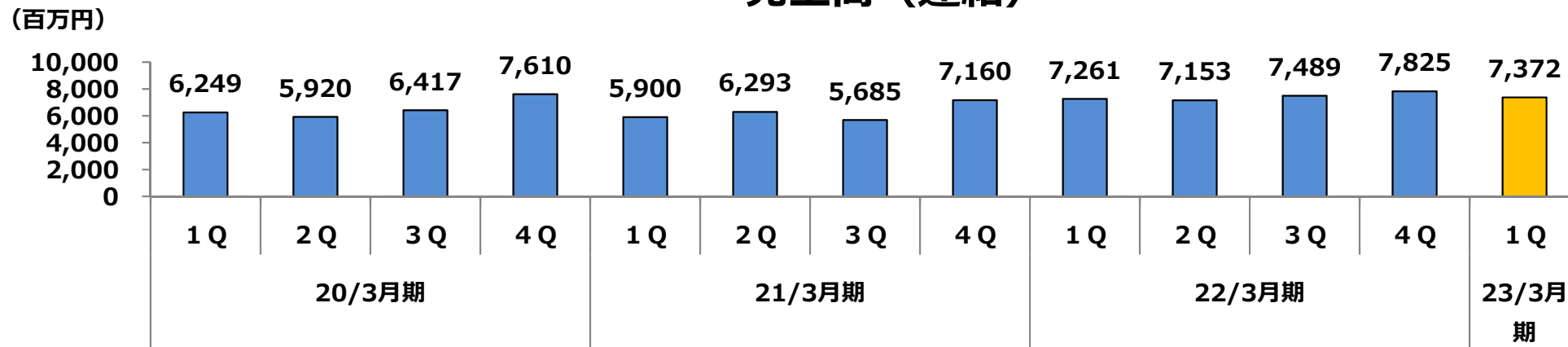
<連結営業利益増減分析>

(単位：百万円)

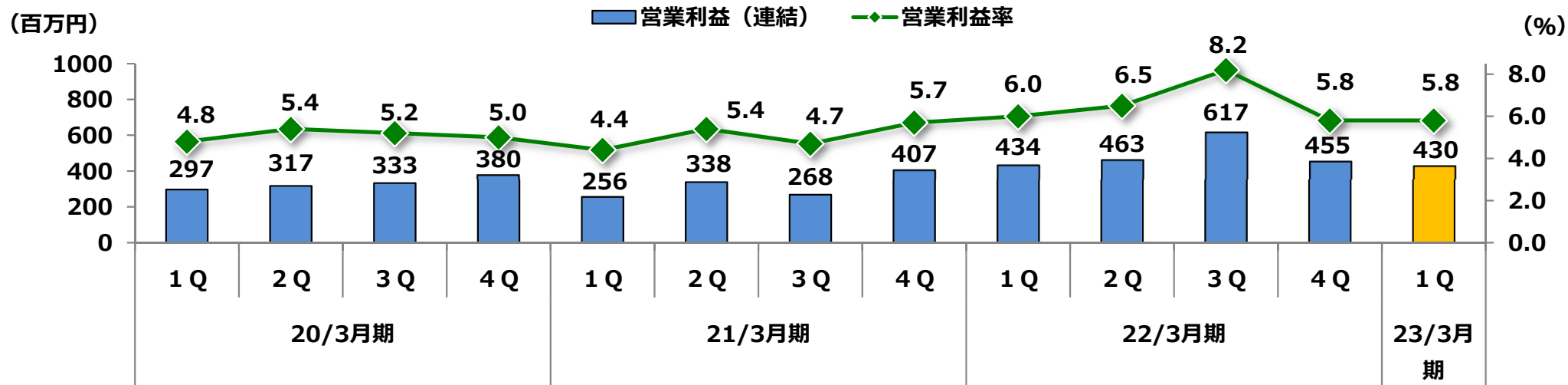


<四半期毎の売上高・営業利益（連結）の推移>

売上高（連結）



営業利益（連結） / 営業利益率



Point !

- 売上高：電子部品/半導体関連得意先への売上が前期より好調を維持
- 営業利益：人件費増により減少するも、前期から高い水準を維持

<部門別実績>

制御機器



<主な得意先の業種>

デジタル機器/半導体・液晶製造装置
/基盤実装機/自動車・車載部品/
工作機械等

FA機器



<主な得意先の業種>

デジタル機器/自動車・車載部品/
半導体・液晶製造装置/OA機器/医
療機器/食品機器等

産業機器



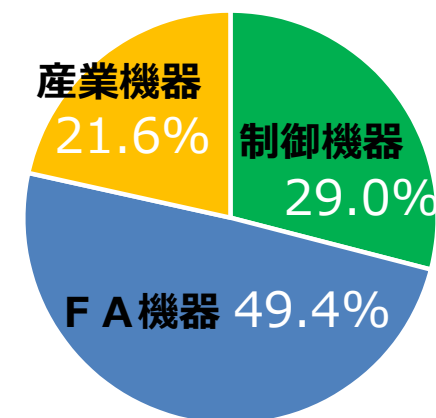
<主な得意先の業種>

デジタル機器/自動車・車載部品/
半導体・液晶製造装置/精密機器等

【連結売上高】

制 御 機 器	21億40百万円
F A 機 器	36億44百万円
産 業 機 器	15億87百万円
合 計	73億72百万円

【構成比率】

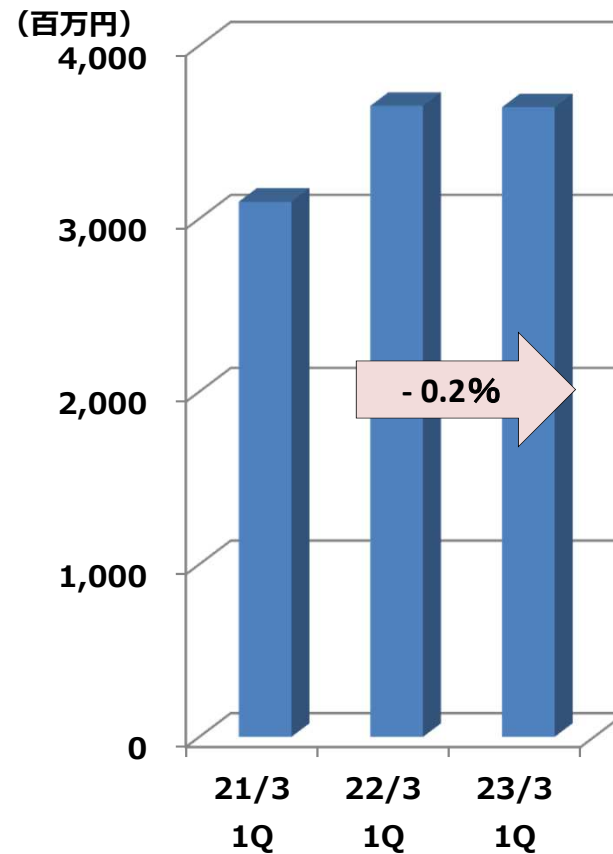


<部門別連結売上高推移>

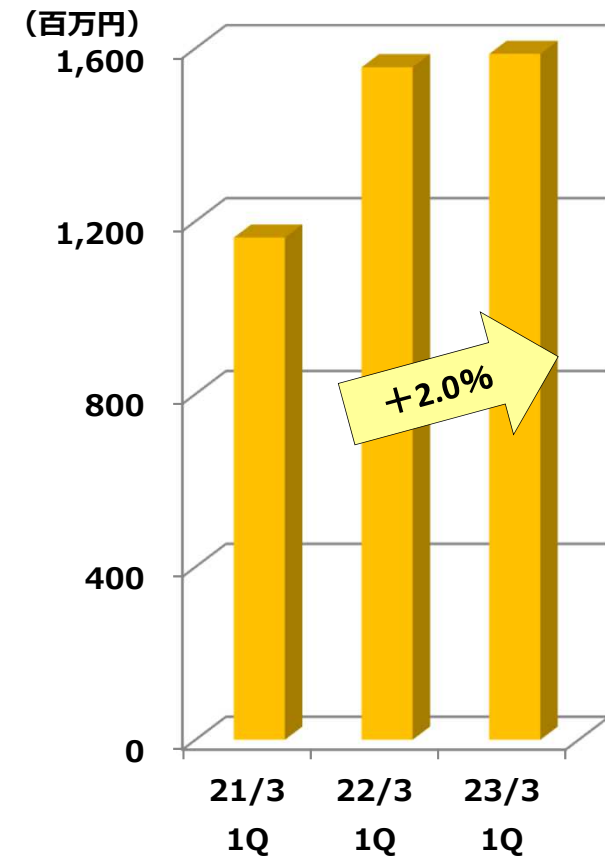
制御機器



FA機器



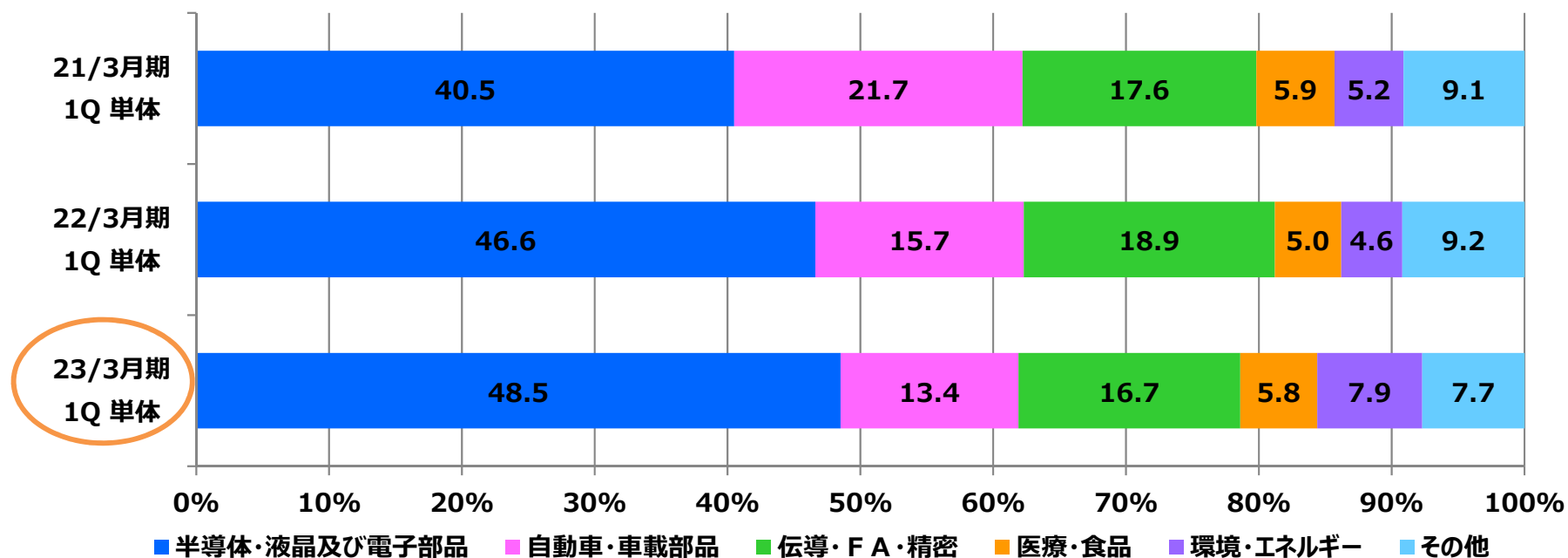
産業機器



Point !

- 【制御機器】 半導体及び半導体製造装置や電子部品関連向けが、更に好調に推移し、工作機械向けは減少
- 【FA機器】 スマホ関連向け得意先への販売は増加したが、自動車・車載部品関連向けは、引続き世界的な半導体等の部材不足により減少
- 【産業機器】 半導体関連得意先への「ろ過フィルタ」の販売が前期より引続き好調に推移

＜業種別売上構成比（単体）推移＞



Point !

＜半導体・液晶及び電子部品＞

半導体市場及びスマートフォン市場への販売が好調を維持し、更に拡大（+1.9 P）

＜自動車・車載部品＞

引続き半導体不足の影響による自動車生産抑制の影響を受け、受注が減少（△2.3 P）

＜伝導・F A・精密＞

工作機械関連の得意先からの受注が減少（△2.2 P）

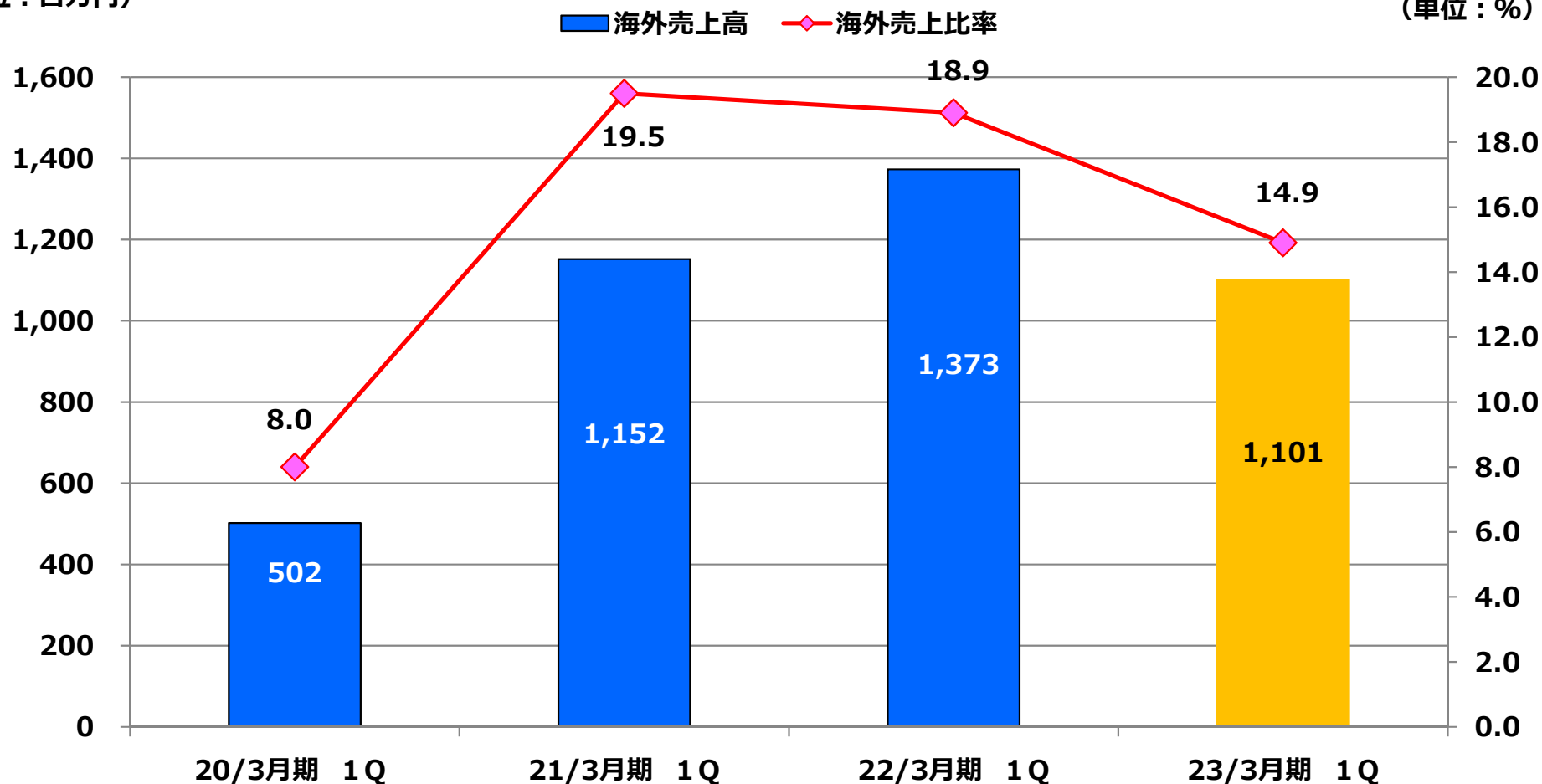
＜環境・エネルギー＞

一部、自動車部品関連の環境設備への受注あり、拡大（+3.3 P）

<海外売上高・海外売上比率>

(単位：百万円)

(単位：%)



Point !

- 鳥羽（上海）貿易有限公司における、スマートフォン関連得意先への販売が一時的に減少し、海外売上が減少

＜連結貸借対照表の概要＞

(単位：百万円)

	22/3月末	構成比 (%)	22/6月末	構成比 (%)	備 考
流動資産	21,761	75.1	21,167	75.0	
現金・預金	10,100	34.9	9,227	32.7	
受取手形・売掛金 ※電子記録債権を含む	11,251	38.8	11,520	40.8	
商品	275	1.0	325	1.2	
固定資産	7,206	24.9	7,058	25.0	
資産合計	28,968	100.0	28,225	100.0	
流動負債	9,237	31.9	8,696	30.8	
支払手形・買掛金 ※電子記録債権を含む	8,129	28.1	8,148	28.9	
固定負債	450	1.6	443	1.6	
負債合計	9,687	33.4	9,140	32.4	
純資産合計	19,280	66.6	19,085	67.6	
負債純資産合計	28,968	100.0	28,225	100.0	

Point !

- 構成比に大きな変化はございません。

Ⅱ. 今後の戦略及び見通し

＜経営の考え方＞

（１）目指すべき企業像

百年の信頼を未来につなげるため、「信用第一主義」を貫き、産業の発展と地球環境に貢献する企業を目指します。

（２）経営理念（社是）

- ・当社は社会人類に貢献するためにある。
- ・当社は社員の向上と幸福を計るためにある。
- ・当社は最大ならずとも最良の会社たることを期する。
- ・当社は明朗、勤勉、練達の社員のみをもって結成する。
- ・当社は何事にも無理なく、堅実に、しかも進取、独創、能率的に経営し、信用を第一におく。

<中期経営計画 「Next Stage 2025」 について>

経営理念を軸とし、中期経営計画を策定し、事業活動を通じて企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指します。

(単位：百万円)

				「Next Stage 2025」		
	第73期 (2022年3月期)			第74期 (2023年3月期)	第75期 (2024年3月期)	第76期 (2025年3月期)
	計画	実績	達成率	計画	計画	計画
売上高	26,500	29,730	112.2%	31,000	33,000	35,000
営業利益	1,390	1,971	141.9%	1,960	2,100	2,250
経常利益	1,490	2,061	138.3%	2,070	2,200	2,350
当期純利益	1,020	1,424	139.7%	1,440	1,530	1,620

Point !

- 2022年3月期は、中期経営計画数値目標を達成
- 2022年8月9日、新たに2023年～2025年の3ヶ年計画をリリース
- 今期目標数値：売上高310億円達成に向けて進捗中

※当社グループは、経営環境の変化等に対応すべく、「ローリング方式」により、中期経営計画を毎年度策定することとしております。

＜海外の市場環境＞

- ◆ 米国利上げによる経済政策により、米国経済を中心に、景気減速懸念。
- ◆ 欧州経済は、ロシアのウクライナ侵攻の長期化による地政学的リスクあり。
- ◆ 世界的な資材の高騰や入手困難による、生産抑制や設備投資縮小の懸念。
- ◆ **中国経済について**
 - ▶ ゼロコロナ政策による、ロックダウンは解除されたが、依然としてコロナ感染の再拡大の懸念。
 - ▶ ゼロコロナ政策により、スマートフォンの需要は減速してきたが、「5G」向けを含め設備投資が今後も増加していくものと予測。
 - ▶ 中国の自動車産業は、依然として半導体不足の影響は解消されていないが、電気自動車関連の設備投資は旺盛と予測。

<国内の市場環境>

- ◆ 米国利上げによる記録的な円安の影響はあるが、設備投資は順調に推移する見通し。新型コロナウイルス感染症の再拡大による消費マインドの低下の可能性もあり、国内経済の先行きは依然として不透明な状況。
- ◆ **自動車・車載部品業界**
自動車産業は、世界的な半導体不足の影響により生産を抑制される状況であるが、自動車産業全体としては徐々に回復し、特に電気自動車の規制緩和による設備投資は旺盛。更に、C A S E 等の新技術への対応による設備投資で拡大期待。
- ◆ **半導体・液晶製造装置業界および電子部品業界**
世界的な半導体不足の影響から、半導体設備装置関連への販売は引き続き好調に推移するものと予想。また、データセンターや高速通信規格「5 G」への投資についても同様に推移する見込み。

<2023年3月期の戦略>

◆次世代の柱となるユーザー開拓

- ▶ 5G 関連潜在需要の取り込み
半導体、電子部品、スマートフォン、AI・IoT、基地局、ゲーム等に関連する得意先
- ▶ 自動車・車載部品業界へ積極的に拡販（車載電池、CASE、ADAS等）
- ▶ 三品業界など自動化が進んでいない得意先への協働ロボット等、F A 機器の販売を積極的に展開

◆装置・システム案件の更なる拡販

- ▶ 単品販売から製造ラインの自動化まで、システムインテグレーション事業として拡販

◆半導体向け「ろ過フィルタ」やEビジネスでの売上拡大

- ▶ 注力商品「ろ過フィルタ」については、専任担当者を増員し拡販
- ▶ Eビジネスについては、商品の入れ替え及び拡充

◆新商材の発掘

- ▶ 各種ロボット、AGV（無人搬送車）、AMR（自律走行搬送ロボット）、各種自動機等
- ▶ 環境負荷低減商品（CO²削減）

<2023年3月期の戦略>

◆海外拠点との連携強化し売上拡大

- ▶ 中国及びアジア地域に新たな営業拠点開設の検討
- ▶ 新型コロナ感染症の収束状況を見ながら、積極的な営業活動を再開

◆売上拡大施策

- ▶ 新たな国内販売の柱となる営業拠点開設の検討
- ▶ 当社主催『複合展示会』の開催により、新商品アイテムの拡販
- ▶ 大型展示会へ出展し、新規顧客及び商流の獲得

①第2回 工場の協働ロボット利活用展（東京ビッグサイト）
2022年7月20日～22日 ※実施済み

②第25回 関西機械要素技術展（インテックス大阪）
2022年10月5日～7日

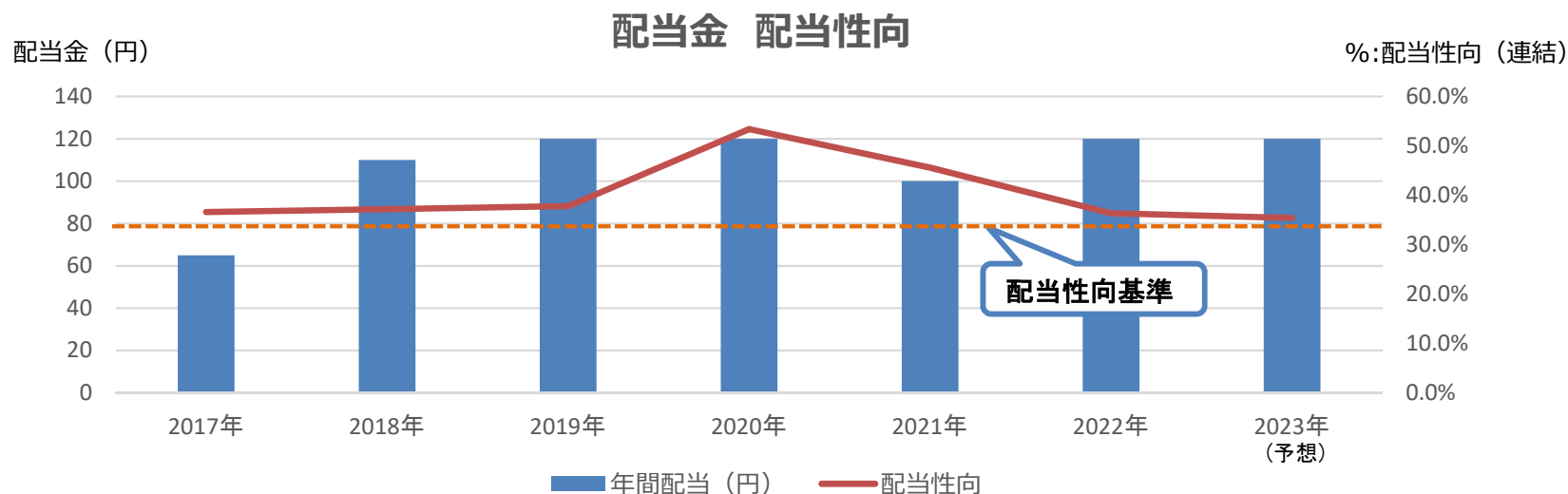
<2023年3月期の連結業績予想>

(単位：百万円)

	22/3月期 (実績)	23/3月期 (予想)	前期比 (増減率)
売上高	29,730	31,000	4.3%
営業利益	1,971	1,960	▲0.6%
営業利益率	6.6%	6.3%	▲0.3 P
経常利益	2,061	2,070	0.4%
経常利益率	6.9%	6.7%	▲0.2 P
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,424	1,440	1.1%
当期純利益率	4.8%	4.6%	▲0.2 P

<株主還元について>

- ◆ 配当方針：長期的、安定的な利益還元の実施を目標とする
- ◆ 連結配当性向を35%以上とし、一株当たりの配当金を下限40円とする



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 (予想)
年間配当 (円)	65	110	120	120	100	120	120
配当性向	36.6%	37.2%	37.8%	53.4%	45.6%	36.3%	35.4%

※2021年3月期の配当金は、記念配当 20円を含む

<展示会出展報告>

- 第2回 工場の協働ロボット利活用展（東京ビッグサイト）
開催日：2022年7月20日（水）～22日（金）

当社の取扱い商品や事業内容を紹介し、商談を行いました。今後の注力商品についてもデモ機実演を交えて紹介し、具体的な引き合いを多数いただきました。今後も主要な展示会に出展し、売上規模拡大と企業価値の向上を目指します。



電動キャスター デモ実演



各種協働ロボット デモ実演



賑わいを見せる 当社ブースの様子



この資料には、2022年8月9日現在における弊社の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

従いまして、その内容につきましては、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。また、本プレゼンテーションは、投資を勧める目的のものではございません。

[問い合わせ先]

株式会社 鳥羽洋行

管理本部総務グループ I R 担当

住 所：〒112-0005

東京都文京区水道2丁目8番6号

電話番号：03-3944-4031

F A X：03-3944-4091

E メール：kanri-01@toba.co.jp